

1 広島修道大学 2022 年度「心理学」コマシラバス・履修判定指標

2 広島修道大学健康科学部

3 中西 大輔

4 カリキュラムの中での位置づけ

5 人間を観察可能な行動から理解しようとしてきた心理学の入門講義。機能主義、行動主義の観点からこれまで
6 で心理学の領域で行われてきた代表的な研究を概観する。

7 科目の目的

8 人は過去から心に関する関心を継続して持ち続けていたが、心理学という独立した分野が成立し、実証的な
9 研究が始まったのは 19 世紀に入ってからである。本講義では、19 世紀末から行われてきた心理学の研究内
10 容について概観することで、様々な心理学者たちが心理学的な方法によって人間をどのように理解しようと
11 してきたのか、あるいは何を諦めてきたのかを知ることを目的とする。

12 到達目標

13 心理学において代表的な各分野の概要が理解でき、心理学が扱う内容と扱わない内容について説明すること
14 ができる。

15 科目の概要

16 「心理学」とは人間行動に関する科学であるとされている。心理学は「心理」学ではあるものの、そこで扱
17 われているのは「行動」である。行動というのは外から観察可能なものを全て含んでいる。したがって今担
18 当者がシラバスを書いているというのも行動だし、このシラバスを読むというのも行動である。広義には脳
19 波や脈拍も行動 (behaviour) である。外から観察可能な行動から、人間の振る舞いについて一定の法則を見
20 出すのが心理学という学問である。これは広義には「行動主義 (behaviourism)」と言われているが、当然測
21 定可能な対象が増えれば、扱う内容も増える。実際、心理学の領域はその成立時点からどんどん広がってい
22 る。問題は「測定」可能なものが心理学の研究対象であるということである。そのような意味で、主流派の
23 心理学は実証科学である。この講義では心理学論、心理学史、学習心理学、知覚心理学、認知心理学、性格
24 心理学、社会心理学、発達心理学、進化心理学、臨床心理学、心理学研究法といった広範な領域について、
25 行動を軸にこれまで明らかにされたことを紹介することによって心理学の導入としたい。

26 15 回の授業内容

- 27 1. 心理学とは何か? (心理学論)
- 28 2. 心理学はいかに研究されてきたか? (心理学史)
- 29 3. 経験から学ぶ (学習心理学)
- 30 4. 情報の入力 (知覚心理学)

- 31 5. 情報の蓄積 (認知心理学: 記憶)
- 32 6. 出力としての思考・判断・意思決定 (認知心理学: 意思決定)
- 33 7. 行動の一貫性と個人差 (性格心理学)
- 34 8. 中間まとめ
- 35 9. 社会的存在としてのヒト (社会心理学)
- 36 10. ヒトの個体発生 (発達心理学)
- 37 11. ヒトの系統発生 (進化心理学)
- 38 12. 心理学の臨床的応用 (臨床心理学)
- 39 13. 心理学はいかに研究するのか? (心理学研究法)
- 40 14. 心理学研究において注意すべき点 (心理学と研究倫理)
- 41 15. まとめ

42 科目のキーワード

- 43 1. 心理学
- 44 2. 行動 (behaviour)
- 45 3. 心 (〈内部〉)
- 46 4. 機能主義

47 授業の展開方法

48 2022 年度に関しては今の所 (2022 年 1 月 18 日現在) 対面授業が予定されている。対面授業の場合はふつう
49 にやるが、本講義は用いる教材が多い (毎回の授業で 20 ページ) ので、履修予定人数によってその資料の配
50 布方法を検討している。150 人程度の場合は、毎回担当者が教材を印刷して配布する。300 人程度の場合は
51 印刷したものを担当者だけで持ち込むのが難しくなるため、大学生協に教材の製本を依頼し、実費で配布す
52 る (おそらく製本・印刷代で 2000 円程度)。対面授業の場合、成績評価は持ち込み不可の期末試験 100%と
53 する。

54 しかしオミクロン株の蔓延があり、油断できない状況にある。もし、非対面 (オンデマンド) となった場合
55 は、Moodle を使ったオンデマンド形式で授業を展開する。授業に関する短い動画を視聴し、それを見てか
56 ら PDF 資料を読み、小テストに回答してリアクションペーパーを書くのが毎回の授業課題である。リアク
57 ションペーパーに質問がある場合は、翌週までにブログ (<https://daihiko.net/>) で回答する。非対面式の場合、
58 成績評価は Moodle の小テスト (そのうち、中間試験 20%、最終試験 30%) により行う。問い合わせには可
59 能な限り迅速に回答するので、2 日経っても返信がない場合などは遠慮なく催促していただきたい。

60 第1回 心理学とは何か? (心理学論)

61 科目の中での位置付け

62 「心理学とは何か」について概観する。心理学の伝統的な考え方について学び、通俗的に知られている心理
63 学と「本当の」心理学の共通点や差異について知ることを目的とする。心理学に限らずあらゆる学問は初学
64 者を「裏切る」が、心理学はどのような意味で初学者を「裏切る」のかを解説する。その中で、統計的デー
65 タと個人のデータをどのように考えたらよいかを学んだ上で、心理学の主流の考え方が機能主義であるとい
66 う点について解説し、機能主義の基本的な考え方を紹介する。他の学問と同様に、「そもそも」心とはなん
67 なのかを考えると心理学の特徴があることを解説し、心から現象を説明することの無意味さについて
68 考える。心理学について学ぶにあたり、構成概念について知ることは重要である。心的構成概念についての
69 考え方を学ぶことで、心理学者が目に見えないところをどのように具体的な研究対象としてきたのかを知る。

70 コマ主題細目

- 71 1. 心理学の基本的な考え方
- 72 2. 心理学が目指すもの (科学か臨床か)
- 73 3. 心理学の守備範囲 (職業)
- 74 4. 心理学の守備範囲 (研究領域)

75 細目レベル

- 76 1. 心理学では基本的にどのような考え方をするのか、人間をどのような切り口で見るのかについて知る。
77 どのような学問であれ、初学者であればたいていその学問についての「誤った」イメージを持っている。
78 心理学は特に高校までには習わない科目のため、その誤解と「本当の」心理学の姿との乖離が大きな問
79 題となる。つまり、初学者は心理学に対してなんらかの期待を持って学び始めるが、たいていその後には
80 失望する。もちろんその失望には教える側の問題であることもあるが、学問を学び始めるといとき
81 には多かれ少なかれ誤解や裏切られる経験というのはあるものである。そのことについて、科学の個別
82 化の問題、機能主義、そもそも論の3つの観点からアプローチする。その上で、こころを科学的に扱う
83 場合に重要な構成概念について学ぶ。
- 84 2. 心理学は大きく分けて法則定立型の心理学と、応用型の心理学からなる。これらがどのように異なり、
85 どのように共通しているのかを学ぶ。他の科学と同様、心理学が科学であるためには (特に人間を対象
86 とする心理学は自然科学の学問と異なり科学「になる」ことが必要な事情がある)、ポパーの言うよう
87 な反証可能性が必要になる。反証可能性を担保するための、仮説を構築し、検証するというプロセスに
88 ついて学ぶ。「科学であるため」というのは、心理学は自然科学ではないから、こういったアイデンテ
89 イティの構築が必要になってくるという事情があるし、また、実際に心理学には科学ではない領域も存
90 在する (「科学ではない」というのは別にネガティブな意味ではない。哲学や文学はそもそも科学では
91 ないが科学より価値がない、などということを決してない)。
- 92 3. 心理学の守備範囲 (職業) について学ぶ。心理学の知識が活かされている領域にはどのようなものがあ
93 るのかをまとめ、社会に心理学がどのように活かされているのかを知る。医療分野、福祉分野、教育分

94 野、産業分野等のそれぞれについて、資格を取得するためには心理学を学ぶ必要がある。心理学とかか
95 わりの強いいくつかの資格について、例えば精神保健福祉士と社会福祉士と介護福祉士にはどのよう
96 な違いがあるのか、など、自分のキャリアとは無関係であっても、将来自分がこういったサービスの利
97 用者となるかもしれないので学んでおくことは無駄ではない。さらに、心理学を使った領域の仕事だけ
98 ではなく、心理学の専門家として生計を立てるにはどのような仕事があるのかについても学ぶ。

99

100 4. 心理学の守備範囲 (研究領域) について学ぶ。心理学は全体としてどのような領域を研究対象としてい
101 るのか、これまで心理学者が研究対象として選んできた伝統的な領域を紹介する。まず、何が心理学の
102 研究対象として成立しやすいのだろうか。心理学においては、特に測定ということがたいへん重要にな
103 ってくる。科学的心理学においては、研究できるものは測定できるものに限られるからである。また、
104 心理学にある様々な領域はどのように社会的なニーズと関係しているのだろうか? 学問の領域が社会
105 的ニーズと関係することについては必ずしも望ましくない側面もあるが、大学教員の採用といった事
106 情も考慮するとその影響は無視できないというのも現実である。

107 キーワード

108 構成概念、科学、基礎と応用、反証可能性、機能主義

109 復習・予習課題

110 ● 予習: 生協書籍部や図書館でどのような心理学の本があるのかを見てくる (新型コロナの流行で難し
111 い場合は Amazon.co.jp などを検索する)。心理学を学ぶ前の自分にとって「心理学」とはどのようなもの
112 なのか考えをまとめておく。本コマシラバスの第 1 回目を読んでおく。分からない点があればメモし
113 ておき、リアクションペーパー等で質問をする。

114 ● 復習: 教材を熟読して、心理学とはどのような学問なのかを確認する。特に傾性概念、仮説的構成概念
115 (理論的構成概念) の違いについて、剰余意味や同義反復との関連から説明できるようになるまで熟読
116 する。ポパーの反証可能性についての考え方を復習し、仮説、検証、帰無仮説などの違いを理解する。
117 小テストに解答する。小テストは何を見ながら解答しても構わないが、開始後制限時間が設定されてい
118 おり、全て調べながらやると時間が足りなくなるので、しっかり勉強してから挑むこと。また、制限期
119 間ぎりぎりではじめると終了まで間に合わないかもしれないので、余裕をもって行うこと。

120 教材・教具 (番号は細目レベルに対応)

- 121 1. 中西大輔・今田純雄 (2015). あなたの知らない心理学 ナカニシヤ出版 (p. 1)
- 122 2. Popper, K. R. (1959). *The logic of scientific discovery*. Hutchinson (ポパー, K. R. 大内義一・森博 (訳) (1971).
123 科学的発見の論理 (上) 恒星社厚生閣) (p. 57-58)
- 124 3. サトウタツヤ・渡邊芳之 (2019). 心理学・入門 改訂版 有斐閣 (第 1 章「心理学と仕事」)
- 125 4. サトウタツヤ・渡邊芳之 (2019). 心理学・入門 改訂版 有斐閣 (目次)、及びその他の心理学教科書の目
126 次を参照

127

128 第2回 心理学はいかに研究されてきたか? (心理学史)

129 科目の中での位置づけ

130 心理学が現在の形となったのはワトソンの行動主義宣言 (1913 年) 以降であると言える。もちろん、1879 年
131 にヴントがライプツィヒ大学で正式に心理学の実験室を運用しはじめてからというのがボーリング以降の
132 伝統的な心理学史ではあるが、ヴントの心理学と行動主義宣言以降の心理学とは、調べる者と調べられる者
133 が区別されるようになった、という点と、人の〈内部〉は研究対象としない (観察可能な行動だけを研究対
134 象とする) ところが異なる。これまで学んできたあらゆる分野の心理学が行動主義を採用しており、われわ
135 れはまだワトソンを乗り越えていないことを改めて学ぶ。

136 コマ主題細目

- 137 1. 心理学のはじまり
- 138 2. 現代心理学の成立前夜
- 139 3. 実験心理学の誕生
- 140 4. 行動主義とゲシュタルト心理学、心理学の現在

141 細目レベル

- 142 1. 心理学史といえばエビングハウスの「心理学の過去は長い、歴史は短い」という言葉が有名である。
143 これは 1908 年の『心理学要綱』の冒頭の言葉である。アリストテレスの『デ・アニマ』以降、哲学の
144 分野で人の心を巡る思索が行われてきたが、19 世紀末に生まれて 20 世紀初頭に成立した実験心理学は
145 それまで行われてきた心に関する哲学的思索と全く別のものになっている。これが「過去は長い、歴
146 史は短い」の意味である。つまり、人の心に対する興味は古くからあったが、それが独立した研究分野
147 として成立したのはごく最近である。心理学はその成立過程においてある意味人間の〈内部〉である心を
148 扱うことを諦めたと言えるが、そのことについて考える。
- 149 2. フェヒナーによる精神物理学やミュラーの神経科学、ダーウィンの進化論や比較心理学の進歩によっ
150 ていよいよ実験心理学成立の準備が整う。進化論によってヒトと動物の連続性が強調されるようにな
151 ったが、ヒト以外の動物にどの程度の知能を認めるかについては議論があった。「モーガンの公準」で
152 有名なモーガンは逸話法による検討に批判的であった。モーガンの犬にしろ、ソーンダイクの問題箱に
153 入れられたネコにしろ、高度な洞察能力で問題を解決したのではなく、単純な試行錯誤学習によって一
154 見複雑に見える行動を成し遂げている。このように、よりシンプルな原理で複雑な行動を研究しよう
155 という心理学研究の基礎がこの時代に出来上がった。
- 156 3. 現代心理学のはじまりはヴントがドイツのライプツィヒ大学で正式に実験室を運用しはじめた 1879 年
157 であるとされる。ヴントは直接経験の内観により、意識過程を分析して心の要素を発見し、要素の結合
158 法則を明らかにすることで心を研究しようと考えた。彼はこれを精神科学と呼んだが、こうした研究は
159 ティチナー以外には受け継がれなかった。しかし、ヴント は多くの弟子を育て、ドイツで実験心理学
160 の研究が盛んに行われるようになる。アメリカではウィリアム・ジェームズが、日本では元良勇次郎が

161 実験室を作り研究を開始した。このように、19世紀の終わり頃から世界中で実験的な手法を用いた心
162 理学が独立した研究分野として成立していくことになる。

163 4. 現代心理学の誕生は、ワトソンによる行動主義宣言 (1913年)以降であると考えらるべきであろう。ヴン
164 トの実験心理学は現代の実験心理学とは方法上の断絶がある。心理学の研究対象を観察可能な行動に
165 限定して行動の予測と制御を行うことを目的とするワトソンによる行動主義心理学を現代の心理学者
166 も採用している。ゲシュタルト心理学はヴントの要素主義を批判したと言われており、全体性を強調す
167 るが、そこでも検討されるのは観察された行動である。1950年の認知革命が本当にパラダイムシフト
168 と言えるのかどうかについては議論があるものの、「認知」という新しい種類の行動が検討できるよう
169 になっただけで、心理学史上の大きな進歩がそこであったわけではない。

170 キーワード

171 内部、ヴントの心理学、行動主義宣言、認知革命

172 予習・復習課題

- 173 ● 予習: 今回のコマシラバスと教材のプリントをあらかじめ読んでおく。日本心理学会の「心理学ってな
174 んだろう」のコーナーの「心理学の歴史」のうち興味のあるものを読んでおく
175 (<https://psych.or.jp/interest/history/>)。質問があればメモをしておき、リアクションペーパーで質問すること。
- 176 ● 復習: 授業の教材プリントを読み直す。また、日本の心理学の初期にはそのような研究があったのか、
177 J-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>)で『心理学研究』の第1巻をダウンロードして読ん
178 でみる。小テストに解答する。小テストは何を見ながら解答しても構わないが、開始後制限時間が設定
179 されており、全て調べながらやると時間が足りなくなるので、しっかり勉強してから挑むこと。また、
180 制限期間ぎりぎりではじめると終了まで間に合わないかもしれないので、余裕をもって行うこと。

181 教材・教具 (番号は細目レベルに対応)

- 182 1. 高橋濤子 (2016). 心の科学史: 西洋心理学の背景と実験心理学の誕生 講談社学術文庫 (p. 30, 31, 35, 62,
183 89, 94, 100)、桑子敏雄 (訳) (1999). アリストテレス 心とは何か 講談社学術選書 (p. 10, 19, 20)
- 184 2. 大山正 (2010). 心理学史: 現代心理学の生い立ち サイエンス社 (p. 30, 36, 45, 46, 54, 88, 102-104, 117,
185 118)
- 186 3. 大芦治 (2016). 心理学史 ナカニシヤ出版 (p. 17, 22, 26, 35, 39, 42, 53, 55, 62, 64, 87)
- 187 4. サトウタツヤ・高砂美樹 (2003). 流れを読む心理学史: 世界と日本の心理学 有斐閣アルマ (p. 16, 25, 55,
188 56, 85, 136)

189 第3回 経験から学ぶ (学習心理学)

190 科目の中での位置付け

191 学習心理学は生理学のパブロフを起源とする古典的条件づけと、ソーンダイクを祖とする道具的条件づけの
192 2つの条件づけの研究が19世紀の終わりにそれぞれ並行してはじまった。刺激と反応の関係を検討し、行
193 動の予測と制御をすることが心理学の目的だとすれば、それを最も純粋な形で追究しているのが学習心理学
194 である。学習心理学は経験主義哲学に由来する初期の心理学の思想を実証的に研究することに成功した分野
195 であると言える。また、動物や機械とヒトの区別をつけないという心理学の大前提についても主に動物を研
196 究対象としてきた学習心理学を見ればよく分かる。認知心理学では、学習心理学で見ていなかった生活体
197 (生物)の〈内部〉を見ることに成功したが、それは科学的心理学の進展に伴い、行動として測定できる対象
198 が増えた(つまり、〈外部〉に取り出すものが増えた)だけのことなのである、という意味で学習心理学はそ
199 の後の心理学の基礎となるものと言える。

200 コマ主題細目

- 201 1. 学習心理学とは何か
- 202 2. 古典的条件づけの原理
- 203 3. 古典的条件づけの研究: ガルシア効果とアルバート坊や
- 204 4. 道具的条件づけ

205 細目レベル

- 206 1. 学習心理学は経験による行動の変容を研究するという意味で、経験主義哲学の流れを汲んだ最も正統
207 派の心理学である。学習心理学を学ぶ上で最も重要なのが行動 (behaviour) の概念について知ること
208 である。行動には生得的行動と習得的行動があり、学習心理学の対象は後者である。学習心理学では動物
209 の習得的行動について研究するが、同じく動物の行動を研究している動物行動学者はどちらかという
210 と生得的行動に関心がある。ワトソンはヒトの生得的行動については極めて限定したものしか認めな
211 かった。そのため、1930年の本で子どもをどんな存在にでも育てられると豪語したが、もちろんこれ
212 は誇張した主張だし、遺伝のことがわかってきた現代では間違った考え方である。
213 2. 古典的条件づけはパヴロフの研究によって知られるようになった現象である。無条件刺激、無条件反
214 応、条件刺激、条件反応、強化など学習心理学を学ぶ上で重要な用語とその関係を抑える。古典的条件
215 づけがこれらの2種類の刺激、2種類の反応から説明できるようになることがここでの目的である。条
216 件づけは特定の刺激と反応の関係だけではなく、反応する対象の刺激の種類が増えることもある。類似
217 した刺激に対して条件づけが転移することを般化といい、それとは逆に特定の刺激にしか反応しなく
218 なることを弁別という。いったん成立した条件づけが消去されたり回復したりする現象についても学
219 ぶ。このように、ここでは古典的条件づけの基本について学ぶ。
220 3. 学習心理学は基本的に経験によって行動の変容が起こる過程について研究する領域だが、あらゆる学
221 習が成立するわけではない。ガルシアが示したのは、食べたものとその後の腹痛や嘔吐との関係を学習
222 しやすい傾向にあるという味覚の嫌悪学習であった。学習心理学では倫理的な制約から動物を対象と

223 した実験を行うことが多いが、現代的な人権感覚が成立していなかった過去にはヒトを対象とした非
224 倫理的な実験も行われている。アルバート坊やの実験である。この実験は厳密な実験とはいえないが、
225 ヒトに対して恐怖条件づけを行った数少ない例である。ここでは最後に条件づけの理論 (条件づけがど
226 のような状況で成立しやすいかについて説明した理論) を紹介する。

227 4. 古典的条件づけは受動的な学習だが、動物はもっと能動的に環境にかかわる。歯医者ドリル音を聞い
228 ただけで不快になるという古典的条件づけだけではなく、歯が痛くなったら歯医者に行って治療して
229 もらう、という行動を学習して環境に適応することもできる。ここではそのような、後天的で能動的な
230 道具的条件づけについて学ぶ。道具的条件づけを最初に研究したのはソーンダイクである。ソーンダイ
231 クは問題箱という装置を作り、ネコなどの動物を用いて箱からの脱出過程について研究した。ソーンダイ
232 クの研究では道具的条件づけが成立する理由についての理論が不十分であったが、この点について
233 スキナーはソーンダイクのように満足のような内部状態を考えることは意味がないと主張した。

234 キーワード

235 行動主義、古典的条件づけ、道具的条件づけ、強化、随伴性

236 予習・復習課題

237 ● 予習: 今回のコマシラバスと教材のプリントをあらかじめ読んでおく。ちとせプレスの Web サイトに
238 ある「意外といける! 学習心理学」を読む (<http://chitosepress.com/2016/02/01/1061/>)。質問があればメモ
239 をしておき、リアクションペーパーで質問すること。

240 ● 復習: 授業の教材プリントを読み直す。また、授業で紹介されたスキナー箱を使った実験が YouTube な
241 どで見られるのでいくつか見てみる。Moodle 上にあるアルバート坊やの実験の YouTube 動画を見る。
242 小テストに解答する。小テストは何を見ながら解答しても構わないが、開始後制限時間が設定されてお
243 り、全て調べながらやると時間が足りなくなるので、しっかり勉強してから挑むこと。また、制限期間
244 ぎりぎり始めると終了まで間に合わないかもしれないので、余裕をもって行うこと。

245 教材・教具 (番号は細目レベルに対応)

246 1. Watson, J. B. (1930). *Behaviorism*. (Revised edition) W. W. Norton. (ワトソン, J. B. 安田一郎 (訳) (2017). 行動
247 主義の心理学 ちとせプレス) (p. 108, 116)

248 2. Mazur, J. E. (2006). *Learning and Behavior*. (6th ed.) Pearson/Prentice Hall (メイザー, J. E. 磯博行・坂上貴之・
249 川合伸幸 (訳) (2008). メイザーの学習と行動 (日本語版 第3版) 二瓶社) (p. 1, 37, 38, 59, 60, 68, 71, 72, 89,
250 119)

251 3. 実森正子・中島定彦 (2000). 学習の心理: 行動のメカニズムを探る サイエンス社 (p. 38, 64, 65, 90, 128)

252 4. 小野浩一 (2016). 行動の基礎 (改訂版) 培風館 (p. 43, 47, 53, 105, 112, 255, 256, 276)

253 第4回 情報の入力 (知覚心理学)

254 科目の中での位置付け

255 知覚心理学、認知心理学、学習心理学などの領域ではいずれも人間内部の情報処理に焦点を当てた研究を行
256 っている。知覚心理学では外界から情報をどのように取り込むか、特に視覚を中心とした研究が行われてい
257 る。そうして取り込んだ情報をどのように処理し、貯蔵し、貯蔵した情報を取り出すかといった点に着目し
258 て研究しているのが認知心理学であり、いったん取り込んだ情報によって将来の行動が変動する点を研究す
259 るのがすでに紹介した学習心理学である。ここでは視覚や聴覚からわれわれがどのように情報を取り込んで
260 反応が行われるかを学ぶ。入力された情報はなんらかの形で蓄積されなければ将来の行動に結びつかないが、
261 そこについて学ぶのが次回の「情報の蓄積 (認知心理学: 記憶)」である。

262 コマ主題細目

- 263 1. 「外界」とは何か?
- 264 2. ものを「見る」しくみ
- 265 3. 形の知覚
- 266 4. ものを「聴く」しくみ

267 細目レベル

- 268 1. 知覚心理学はわれわれが「外界」を知覚するしくみを研究しているが、そもそも人間にとって「外界」
269 (あるいは環境) とは何だろうか。知覚心理学の研究がこれまで明らかにしてきたのは、人にとって外
270 界とは物理的な存在ではなく、心理的な存在だということである。視覚に関して言えば、われわれは網
271 膜状に投影された世界をそのまま正確に知覚しているわけではない。つまり、われわれが見たり聞いた
272 りするものは対象物の物理的、客観的な性質をそのまま反映しているのではなく、われわれは世界をあ
273 る種の歪みを持って知覚している。ここでは感覚や知覚というものがいったいどのように心理学では
274 扱われてきたのか、心理学ではそれらはどのように測定されてきたのかについて学ぶ。
- 275 2. 知覚心理学の研究対象として中心的な位置を占めるのが視覚である。まず、われわれヒトの眼がどのよ
276 うな仕組みでものを見ているのかを確認する。見るしくみについて学ぶ上で有益と考えられるストラ
277 ットンの逆さメガネ実験を紹介する。逆さメガネの実験は、物理的に網膜上に写っている映像を逆さに
278 した場合 (実際には網膜には逆さに写っているのだから、それを「元に戻した場合」) にわれわれがい
279 かにそれに適応していくかを理解する上で重要なものである。次に、われわれがどのように色を知覚す
280 るのか、そもそも色とは何なのかを色彩の3属性、ヤング=ヘルムホルツの3色説やヘリングの反対色
281 説などの歴史的に重要である色の知覚に関する論争を紹介することで学ぶ。
- 282 3. ここでは知覚心理学の花形でもある錯視の研究を紹介する。なぜ花形かというと、物理世界と心の世界
283 の違い、つまり、われわれが物理世界をそのままに見ているのではなく、歪んだ形で見ていることを最
284 も直接的に、強いインパクトを伴って示すことができるのが錯視の研究だからである。まず図と地の反
285 転について、ルビンや大山らの伝統的な図地反転画像を学ぶ。また、いくつかの標準的な幾何学的錯視
286 と、そうした錯視の起こるメカニズムの一端について学ぶ。錯視ということに関しては形だけではな

287 く、明るさや色のものも存在する。それらについても簡単に触れる。錯視は単に「不思議な」現象であ
288 る、というだけではなく、そのように「歪んだ」見方をわれわれヒトがしてきたのはなぜかを考えるき
289 っかけとなるという意味で重要である。「ありのまま」に知覚しない方がよかった理由があると考えら
290 れるのである。

291 4. 音には音圧や周波数、波形などの物理的属性と、音の大きさ、高さ音色などの心理的属性がある。これ
292 は視覚と全く同様の構造である。人の可聴範囲はほぼ 20Hz から 20,000Hz と言われているが、いわゆ
293 るモスキート音と言われる 17,000Hz 以上の音は若年者でなければ聞こえないことが分かっている。音
294 が聞き取りやすい範囲であっても、騒音によって聞き取りが困難なマスキングと呼ばれる現象がある。
295 これはごく当然の現象と思われるかもしれないが、なぜマスキングが起こるのかは知覚心理学におけ
296 る重要な研究の対象となってきた。また、人は耳を使うだけではなく、視覚情報を統合した上で音を知
297 覚していることがマガーク効果などから理解できる。マガークとマクドナルドの有名な実験について
298 知ることで、知覚は複数のチャンネルが関わる現象であることを学ぶ。

299 キーワード

300 感覚・知覚、色覚、錯視、視覚的捕獲

301 予習・復習課題

302 ● 予習: 今回のコマシラバスと教材のプリントをあらかじめ読んでおく。「北岡明佳の錯視のページ」
303 (<http://www.ritsumei.ac.jp/~akitaoka/>) を見て、どのような錯視があるのかざっと確認しておく。質問があ
304 ればメモをしておき、リアクションペーパーで質問すること。

305 ● 復習: 授業の教材プリント、授業で紹介された様々な錯視以外にも様々なものがある。錯視について
306 Web 検索をして、どのような錯視があるのかを調べる。マガーク効果に関するビデオを検索し、デモン
307 ストレーションを確認しておく。小テストに解答する。小テストは何を見ながら解答しても構わない
308 が、開始後制限時間が設定されており、全て調べながらやると時間が足りなくなるので、しっかり勉強
309 してから挑むこと。また、制限期間ぎりぎりではじめると終了まで間に合わないかもしれないので、余裕
310 をもって行うこと。

311 教材・教具 (番号は細目レベルに対応)

- 312 1. 大山正 (1984). 感覚 大山正 (編) 実験心理学 (pp. 22-41) 東京大学出版会 (p. 7, 8, 22-24, 32, 33)
- 313 2. 吉村浩一 (2008). 逆さめがね実験の古典解説: 19 世紀の Stratton の 2 つの論文 法政大学文学部紀要, 57,
314 69-82. (p. 69, 72, 73, 78)
- 315 3. 佐藤隆夫 (1984). かたちの知覚 大山正 (編) 実験心理学 (pp. 57-78) 東京大学出版会 (p. 70-72)
- 316 4. 重野純 (2003). 音の世界の心理学 ナカニシヤ出版 (p. 65-67, 163, 170, 171)

317

318 第5回 情報の蓄積 (認知心理学: 記憶)

319 科目の中での位置付け

320 認知心理学は、知覚心理学とかなり近い (知覚だけに) 分野であるが、外界から情報をどう取り込むかとい
321 う問題だけではなく、取り込んだ情報をどのように処理するかというさらに高次の情報処理に関する研究が
322 行われている。「情報処理」と書いたが、知覚メカニズムによって取り込んだ外界からの情報をあたかもコ
323 ンピュータが演算するように処理すると考えるとところに認知心理学の特徴がある。1950年代に「サイバネ
324 テイクス」の影響で情報処理機構としての人間というモデルが構築され、1960年代以降のコンピュータの
325 発展とともにこの分野も広がりを見せている。しかし記憶に関する研究は19世紀末から行われている。

326 コマ主題細目

- 327 1. 認知とは何か?
- 328 2. エビングハウスの古典研究
- 329 3. いろいろな記憶
- 330 4. 記憶の応用研究: 目撃証言は信用できるか?

331 細目レベル

- 332 1. 認知心理学は1950年くらいに成立したと言われており、20世紀初頭から教科書のある社会心理学より
333 は新しく、1980年代になってから実証研究が出てきた進化心理学よりは古い。認知心理学の登場には
334 内観法に対する行動主義の批判があり、行動主義全盛期には観察できる刺激と反応の関係のみが扱わ
335 れたという事情があると言われている。しかし、当然刺激に対する反応が得られるからには生体内で
336 「何らかの」処理が行われているわけで、それに対する感心はずっとあった。トールマンやハルは行動
337 主義者であったが生体内の状態に関心を持っていた。生体内の処理を研究できるようになったのはウ
338 イナーによるサイバネティクスの進歩、コンピュータの発展が大きい。
- 339 2. 認知の研究がはじまったのは19世紀に遡る。エビングハウスによる記憶の研究である。彼は自分を被
340 験者とするという独創的な方法で研究を行った。無意味音節の考案や、記憶成績の指標とする節約率な
341 ど、その研究手法は今でも学ぶ価値のあるものである。既存の単語を用いて記憶の研究を行うと、その
342 単語に対して持っている知識や経験が記憶に影響するかもしれない。そこで、アルファベットの子音と
343 母音をランダムに組み合わせた無意味音節による実験手法を開発したのである。エビングハウスは長
344 期記憶がどのように失われるか、忘却曲線という今でもよく知られる関数を発見したことで知られる。
345 一度記憶した対象を、一定時間経過後に再度学習した際、どの程度記憶にかかる時間が節約できるか
346 という観点から記憶を測定したものであり、無意味音節と並んでエビングハウスの研究を特徴づけるも
347 のである。
- 348 3. エビングハウスの研究対象は記憶の分類でいうと長期記憶にあたる。長期記憶は宣言的知識と手続き
349 的知識に分けられ、宣言的知識は意味記憶とエピソード記憶から成り立っている。こうした記憶の分類
350 は神経的な基盤を持っているかどうかという基準でなされているわけではない。研究者が直感的に分
351 かりやすいように分けているだけだが、例えば宣言的知識と手続き的知識で矛盾する場合があること

352 が知られているように、研究を発展させる上でも有益なこともある。なお、短期記憶は意識化されるも
353 のの、すぐに忘れ去られる情報で、意識化されずに消えてしまう感覚記憶というものも存在すること
354 が、スパークリングによる洗練された実験で示されている。

355 4. 記憶の研究は無意味音節を覚えたりタキストスコープで単なるアルファベットを示されたり、基礎的
356 な研究ばかりで現実には役に立たないものなのだろうか。ロフタスは記憶研究を目撃証言の正確さに
357 応用し、人の目撃情報がいかにあやふやなものかを示している。ロフタスとケッチャムによって書かれ
358 た本に紹介されていた事件について紹介する。また、記憶が宗教儀式や不適切なカウンセリングの場で
359 「作り出される」ことによって犯罪がでっち上げられる可能性があることも指摘されている。アメリカ
360 ではこの種の「思い出される」性的虐待の記憶は大きな社会問題となっていたが、そこでは臨床心理学
361 において学ぶことになるフロイトによる「抑圧」という概念が重要な役割を果たしていた。

362 キーワード

363 サイバネティクス、モデル、長期記憶、短期記憶、感覚記憶

364 予習・復習課題

- 365 ● 予習: 今回のコマシラバスと教材のプリントをあらかじめ読んでおく。数字や文字を自分ならどのくら
366 い記憶できるか確かめてみる。質問があればメモをしておき、リアクションペーパーで質問する。
- 367 ● 復習: 授業の教材プリントを読み直す。授業で紹介された作られた記憶や目撃証言のあやふやさについ
368 てどのような事件があったのかを Web で調べる。小テストに解答する。小テストは何を見ながら解答
369 しても構わないが、開始後制限時間が設定されており、全て調べながらやると時間が足りなくなるの
370 で、しっかり勉強してから挑むこと。また、制限期間ぎりぎりではじめると終了まで間に合わないかもし
371 れないので、余裕をもって行うこと。

372 教材・教具 (番号は細目レベルに対応)

- 373 1. 森敏昭・井上毅・松井孝雄 (1995). *グラフィック認知心理学* サイエンス社 (p. 7)
- 374 2. Ebbinghaus, H. (1885). *Über das Gedächtnis. Untersuchungen zur experimentellen Psychologie*. Duncker und
375 Humboldt. (エビングハウス, H. 宇津木保・望月衛 (訳)(1978). *記憶について: 実験心理学への貢献 誠信*
376 *書房*) (p. 23, 82)
- 377 3. Anderson, J. R. (1980). *Cognitive Psychology and its Implications*. W. H. Freeman. (アンダーソン, J. R. 富田達
378 彦・増井透・川崎恵里子・岸学 (訳)(1982). *認知心理学概論 誠信書房*) (p. 235–238)
- 379 4. Loftus, E. F. & Ketcham, K. (1991). *Witness for the defense: The accused, the eyewitness, and the expert who puts*
380 *memory on trial*. Harvard University Press. (ロフタス, E. F.・ケッチャム, K. 巖島行雄 (訳)(2000). *目撃証言*
381 *岩波書店*) (p. 15-17, 19, 20, 37–69)、Wright, L. (1994). *Remembering Satan*. Alfred A. Knopf. (ライト, L. 稲生
382 平太郎・吉永進一 (訳)(1999). *悪魔を思い出す娘たち: よみがえる性的虐待の「記憶」 柏書房*) (p. 37,
383 184, 232–237)

384 第6回 出力としての思考・判断・意思決定 (認知心理学: 意思決定)

385 科目の中での位置付け

386 前回に続き認知心理学の研究を取り上げる。前は主に記憶の研究を紹介した。ここでは、記憶された情報
387 に基づいて行われる情報処理について学ぶ。まずこれまで行われてきた思考の研究に注目する。思考につい
388 ての領域でよく研究されているのが推論である。人間は無限の計算能力を持つコンピュータではないので、
389 推論は必ずしも正確にはできない。間違いの癖に注目することで、われわれの思考のパターンについて検討す
390 る。確率判断では特に人が直感に従う判断が間違えていることが示されるし、われわれの様々な過ちのカタ
391 ログを作ったトヴァスキーとカーネマンによる一連のヒューリスティックスの研究は、人が不正確ながらも
392 限られた資源で妥当な判断をくだそうとする認知的值約家としての側面を明らかにしている。

393

394 コマ主題細目

- 395 1. 推論
- 396 2. 確率判断
- 397 3. ヒューリスティックスとバイアス
- 398 4. 意思決定

399 細目レベル

- 400 1. 人の推論はコンピュータと異なり誤りだらけである。コンピュータなら「バグ」として処理される様々
401 な誤りの例は、人間の認知の癖を見極める上で重要である。最初は推論について学ぶ。人の計算能力に
402 は限界があり、推論は必ずしも正確ではない。定言的三段論法課題や4枚カード問題などの間違いの
403 パターンを見ていく。特に4枚カード問題については後半で学ぶ進化心理学でも社会契約説の検証で使
404 われるなど注目されている。人間の計算能力は文脈の与えられていない4枚カード問題を解くような
405 形では進化していないが、社会契約に違反した者を見つけるという文脈にすると急激に正答率が向上
406 することがわかっており、認知がどのような形で進化したかが明らかになりつつある。
- 407 2. 世の中の様々な現象は確率的に起こるが、確率の問題を人間は直感的に理解できるようにできていな
408 い。その例として3囚人問題とタクシー問題を取り上げる。これらはベイズの定理から正解を正しく
409 導くことができるという意味で正解のある問題なのだが、人はそうやって正解を説明されても、やはり
410 直感的には納得できない。また、プロスペクト理論が示すように、人間の判断はフラットではなく、獲
411 得状況や損失状況といったフレームに与え方によって異なるバイアスを示すことが分かっている。人
412 は取り込んだ情報を「それなりに」計算した上で意思決定を行うが、その計算の仕方はコンピュータと
413 同じではなく、一定の進化的制約のもとに、ある種「歪み(バイアス)」を含んだ形で行われる。
- 414 3. 人の持つ認知が歪んでいることについて、体系的な研究を行ったのがトヴァスキーとカーネマンであ
415 る。彼らは経済学と心理学の学際領域で活躍してきた研究者であり、人がある意味で合理的ではないこ
416 とを明らかにしている。ここでは、代表性ヒューリスティックス、調整と係留のヒューリスティックス、
417 利用可能性ヒューリスティックスを扱う。こうした様々な人間の認知の癖は一種の「ショートカット」

418 として機能している。理屈ではそういったやり方は非合理だが、現実場面では計算時間が少なくてだ
419 いたい正解に辿り着くことができる、一種の適応的な戦略として機能するのではないか、という考えであ
420 る。こうした研究はドイツのギーゲレンツァーらのグループによって展開されている。

421 4. 取り込んだ情報を記憶し、それに基づいて思考したあとに来るのは意思決定の問題である。当然人の思
422 考パターンには様々なバイアスがあることから、この意思決定も歪んだものになる。多属性型の意思決定
423 では、時間や認知資源の制約から必ずしも人はすべての属性を丹念に検討するようなことはしない。ま
424 た、埋没費用の誤謬に見られるように、多額の金銭がかかった状況であるにもかかわらず、人間は合理
425 的な思考ができないことも知られている。多くのケースではこれまでたくさん投資したものには引き
426 続き投資したほうがうまくいくのだろうが、それが政治的な意思決定の際に影響力を持つことで多く
427 の財が失われることもあることには注意が必要である。

428 キーワード

429 推論、確率判断、ヒューリスティックス、埋没費用 (サンクコスト)

430 予習・復習課題

431 ● 予習: 今回のコマシラバスと教材のプリントをあらかじめ読んでおく。人間の行動がどの程度合理的か
432 どうか、自分の経験をもとに考えてみる。また、「合理性」とは一体何かを考える。質問があればメモ
433 をしておき、リアクションペーパーで質問すること。

434 ● 復習: 授業の教材プリント、教科書の該当部分を読み直す。バイアスが存在することと、合理的な意思
435 決定との関係とはいったいどうなっているのか、考える。バイアスが合理的な意思決定を阻害する場合
436 と促進する場合について例をあげて考えてみる。小テストに解答する。小テストは何を見ながら解答し
437 ても構わないが、開始後制限時間が設定されており、全て調べながらやると時間が足りなくなるので、
438 しっかり勉強してから挑むこと。また、制限期間ぎりぎりではじめると終了まで間に合わないかもしれな
439 いので、余裕をもって行うこと。

440 教材・教具 (番号は細目レベルに対応)

441 1. 中西大輔・亀田達也 (2001). 集団問題解決におけるステレオタイプの認知の創発的影響 心理学研究,
442 71(6), 469-476. <https://doi.org/10.4992/jjpsy.71.469> (p. 474)、平石界 (2000). 進化心理学: 理論と実証研究の
443 紹介 認知科学, 7(4), 341-356. <https://doi.org/10.11225/jcss.7.341> (p. 346)

444 2. 河野敬雄 (1999). 確率概論 京都大学学術出版会 (p. 5, 6, 19-22)

445 3. 中西大輔 (2009). 決める: 意思決定の心理学 二瓶社 (p. 14, 19, 21, 22, 24-26)

446 4. 竹村和久 (1996). 意思決定とその支援 市川伸一 (編) 認知心理学 4 思考 (pp. 81-105) 東京大学出版会
447 (p. 87)

448

449 第7回 行動の一貫性と個人差 (性格心理学)

450 科目の中での位置付け

451 心理学は基本的に平均の学問である。性格心理学は、それに対して個人差を扱うことのできる分野である。
452 その意味で性格心理学は特異な立場にあるとも言えるが、実際には性格心理学でもやはりほとんどの領域で
453 人間を平均化して見ている。しかし、今後心理学にブレークスルーがあるとすれば個別化の心理学なのかも
454 しれない。少なくとも性格心理学者たちは個人差の問題を扱おうとしてはいる。例えば、オールポートは自
455 己の特性論の中でその人独自の個別特性によって個人差を描き出そうとした。しかし、その後主流となった
456 のは、あらゆる人に共通する共通特性の量的な違いとして性格を記述する特性論であった。平均化と個別化
457 という2つの要請に応えようとする(臨床心理学とも共通する)性格心理学者のあがきについて学ぶ。

458 コマ主題細目

- 459 1. 性格心理学とは何か?
- 460 2. 性格心理学の歴史
- 461 3. 類型論と特性論
- 462 4. 一貫性論争と生まれか育ちか問題

463 細目レベル

- 464 1. 性格とは何か、について、心理学においてこれまで用いられてきた伝統的な定義を学ぶ。最も有名な定
465 義としては Allport(1937) のものがあるが、どのような定義でも個人差と一貫性という点が重要である。
466 個人差は、個人差が重要だといいつつも、実際には多くの人に共通した特性で人間を見てきた性格心理
467 学にとって極めて重要な(そしてある意味つらい)問題であるし、一貫性は、1960年代後半におこった一
468 貫性論争でも性格心理学の存在意義を揺らすことになった問題である。いずれも性格心理学における
469 根本問題であることに違いない。この点について議論した上で、宮城(1960)による性格の概念図から
470 気質、性格、パーソナリティといった類似した概念がこれまでどのように使われてきたかを学ぶ。
- 471 2. 性格に関する関心は古代よりあった。2000年以上前のテオフラストスの『人さまざま』は人間の性格
472 を問題とした最も古い文献と言われている。また、ヒポクラテスの体液病理説に基づくガレノスの4類
473 型などもよく知られている。近代に入ると頭蓋骨の形や筆跡によって性格を推測しようとする試みも
474 あった。このように人の性格を科学的に記述したり、そこから行動を予測したりしようとする努力は継
475 続的に行われてきた。その中では優生思想に繋がるようなものが現れたりしたことに注意が必要であ
476 る。19世紀以降、人の性格を少数のタイプに分ける類型論の研究が盛んになった。こうした研究は性
477 格についての科学研究を一步前進させたが、様々な点で雑であった。
- 478 3. 1930年代になるとオールポート、アイゼンク、キャッテルなどが特性論を提唱する。類型論は少数の
479 類型に分類することでおおざっぱに人の特徴を描き出すことはできるが、科学研究をその土台の上
480 で進めていくには難しい点がある。特性論は、例えばオールポートの共通特性、個人特性の研究、アイ
481 ゼンクの階層構造(これによって特性論と類型論を統合しようとした)、キャッテルの16PFなどが代表
482 的なものである。特性論の発展には、多変量分析がしやすくなったコンピュータと因子分析手法の進歩

483 の影響力が大きいと考えられる。これらについて概観した上で、今最もよく使われている特性論である
484 ビッグファイブを学ぶ。特性論の発展には統計学における因子分析の発達も大きな効果があったと考
485 えられる。

486 4. ここでは一貫性論争と生まれか育ちかという 2 つの重要な問題を扱う。性格の定義で重要であったの
487 は、個人差と一貫性であった。この一貫性について、ミシェルは疑問を投げかけた。人の行動は状況に
488 依存しており、状況を無視したパーソナリティ理論は無意味だと議論したのである。このことは社会心
489 理学の発展とも関係していたであろう。もう一つは生まれか育ちかの問題である。人の行動に遺伝と環
490 境がどの程度影響しているかは昔から一卵性双生児と二卵性双生児を比較することによって研究され
491 てきた。近年ではこうした研究は行動遺伝学という独立した学問領域として成立するに至っている。遺
492 伝と環境の要因を量的に検討する方法について学ぶ。しかし、一貫性論争にしろ、生まれか育ちかの議
493 論にしろ、いずれも「両方ある」という話に落ち着かざるを得ないことには注意が必要である。いずれ
494 も「正解」はその中間にあって、はっきりと割り切れるものではない。

495 キーワード

496 性格、パーソナリティ、類型論、特性論、行動遺伝学

497 予習・復習課題

498 ● 予習: 今回のコマシラバスをあらかじめ読んでおく。人間の行動は状況によって左右されるのか、それ
499 ともその人特有の性格によって決まるのか、考える。質問があればメモをしておき、リアクションペイ
500 パーで質問すること。

501 ● 復習: 性格心理学における概念について整理をする。一貫性論争では誰がどのような議論をしたのかを
502 把握しておく。行動遺伝学における遺伝率や共有環境といった概念について理解を確認しておく。小テ
503 ストに解答する。小テストは何を見ながら解答しても構わないが、開始後制限時間が設定されており、
504 全て調べながらやると時間が足りなくなるので、しっかり勉強してから挑むこと。また、制限期間ぎり
505 ぎりで始めると終了まで間に合わないかもしれないので、余裕をもって行うこと。

506 教材・教具 (番号は細目レベルに対応)

507 1. 渡邊芳之 (2010). 性格とはなんだったのか: 心理学と日常概念 新曜社 (p. 4-6, 23, 28)、宮城音弥 (1960).
508 性格 岩波新書 (p. 1-3, 33, 34, 86, 87, 附表 p. 22)

509 2. 依田新 (1968). 性格心理学 金子書房 (p. 8, 11, 44, 90, 115, 123, 124, 131, 132)

510 3. Allport, G. W. (1937). *Personality: A psychological interpretation*. Henry Holt and Company. (オールポート, G.
511 W. 詫摩武俊・青木孝悦・近藤由紀子・堀正 (訳) (1982). パーソナリティ: 心理学的解釈 新曜社) (p. 5,
512 11, 40, 256, 257, 485, 486)

513 4. 佐藤達哉・渡邊芳之 (1992). 「人か状況か論争」とその後のパーソナリティ心理学 人文学報, 231, 91-
514 114. (p. 91)、安藤寿康 (2000). 心はどのように遺伝するか: 双生児が語る新しい遺伝観 講談社ブルーバ
515 ックス (p. 50, 84)

516

517 第8回 中間まとめ

518 科目の中での位置付け

519 第1回から第7回までのまとめを行う。心理学とは行動の法則性を見つけたり、そうした法則を利用してな
520 んらかの問題を解決したりする学問である。冒頭では心理学の基本的な考え方について紹介した。そのうえ
521 で、初学者がもつ期待と、その期待がなぜ裏切られるかについて説明した。次に、心理学が哲学から別れて
522 実証的に人間を研究してきた歴史について学んだ。当初研究が盛んに行われた領域として、経験による行動
523 の変容について学ぶ学習心理学、情報の入力やその蓄積、出力について扱う知覚心理学、認知心理学の研究
524 成果を概観した。続いて単に平均としての人だけではなく、個人差を扱う領域として性格心理学を学んだ。
525 これらはいずれも個体内の情報処理過程を扱う領域であった。後半ではこの学習内容を踏まえて、他者との
526 関わりや社会性という観点から人の行動を見ていく。

527 コマ主題細目

- 528 1. 心理学はいかにして心理学になったのか
- 529 2. 経験による行動の変容
- 530 3. 個人内の情報処理過程
- 531 4. 個人差と状況

532 細目レベル

- 533 1. この授業の冒頭では心理学とは何かを学び、これまでどのように研究してきたか、学説史を概観した。
534 心理学史とは、心理学が長い過去（エビングハウス）を持ちながら、現代的な心理学として発展して実
535 証的な学問となる（哲学から分離独立する）過程を描いたものである。心理学史は心理学者が心理学者
536 としてのアイデンティティを確立していく歴史と考えることができる。ヴントやジェームズなど初期
537 の心理学者は哲学者でもあった（というより哲学者として心理学を研究していた）。哲学的な関心を有
538 しながら、そこでの問いをある意味大衆化してきた（科学的な方法によって誰でも研究できるようにし
539 た）のが心理学の歩みであると言える。
- 540 2. 学習心理学は、観察可能な行動の経験による変化について研究するという最も心理学らしい領域であ
541 る。特に心理学はイギリス経験主義哲学からはじまったということもあり、経験がいかに人を作るか
542 という研究は王道であった。また、機能主義ではヒトとヒト以外の動物やロボットとの区別をつけない
543 が、学習心理学では動物の研究が中心に行われている。そういった意味でも、学習心理学は、行動主
544 義と機能主義という、現代の心理学を支える2つの立場を最も純粋に追求した学問と言える。しかし、
545 ガルシア効果など、もともと学習されやすい刺激と反応のパタンというものはあり、経験だけで動物の
546 学習を理解することは難しい。そういう意味では後半部分で学ぶ進化心理学との連携が求められる。
- 547 3. 認知心理学は1950年代に始まったと考えられており、初期のものには1967年に刊行されたナイサー
548 の『認知心理学』がある。しかし、この本で紹介されている研究はどちらかというところ現在のわれわれが
549 イメージする知覚心理学の内容である。そのほとんどが知覚と注意の問題に割かれているのである。知
550 覚心理学の研究は視覚や聴覚が中心となるが、認知心理学では視覚や聴覚といった機能により取り込

551 まれた情報が記憶され、記憶された情報がどのように処理されるかといった問題が扱われる。したがっ
552 て、知覚心理学と認知心理学は連続したものだが、記憶から先の話を知覚と言うことが多いと思われ
553 る。知覚心理学や認知心理学は再現可能性 (研究倫理のところ学ぶ) については比較的保証されてい
554 る。人による分散 (データのばらつき) が少ないということ、科学的な研究手法が確立しているという
555 点が大きいであろう。

556 4. 性格心理学では一貫性論争について学んだ。この一貫性論争とは、誤解を恐れずに言えば、性格心理学
557 と社会心理学の対立でもある。人間行動はその人に内在する一貫性のある性格によって引き起こされ
558 るのか、それとも人間〈外部〉にある環境によるのか、という論争である (しかし、心理学者が扱うも
559 のは全て観察可能な行動であり、その意味でそこには〈外部〉しかないとも言える)。環境が人間行動
560 に影響を与えるというのが伝統的な心理学の考え方であり、例えば学習心理学などは完全に社会心理
561 学と価値観をともにしている。外部からの刺激によって人は動くのである。そう考えると性格心理学は
562 伝統的な心理学ともともと相性が悪い領域と言えるのかもしれない。その意味で、近年性格心理学の専
563 門書に進化の章が付け加えられていたり、あるいは行動遺伝学との融合が行われていたりするのも理
564 解できる。人間の内部から一貫してその個人を動かすのは遺伝子だからである。

565 キーワード

566 心理学史、学習、情報処理、一貫性と状況、

567 予習・復習課題

568 ● 予習: 第1回から第7回までのコマシラバス、教材を全て読んで話を思い出しておく。特に前半部分
569 を通して、これまで抱いていた心理学に対するイメージがどのように変わったかということを改めて考
570 える。また、心理学が観察可能な行動を対象として研究するという行動主義及び機能主義について復讐
571 をしておく。質問があればメモをしておき、リアクションペーパーで質問すること。

572 ● 復習: 心理学が哲学から分離独立した過程を復習し、心理学が一つの学問領域として確立されたことの
573 メリットとデメリットについて考えてみる。学習心理学は状況による行動の変化を研究する分野であ
574 り、知覚心理学や認知心理学は個人内の情報処理過程に関心がある。一方、性格心理学は個人差を扱っ
575 ている。情報処理過程や経験による学習にも当然個人差が関わってくると思われるが、なぜ性格心理
576 者を含め心理学者はデータを平均化して個人差をつぶしてきたのか、考えてみる。

577 教材・教具 (番号は細目レベルに対応)

578 第1回目から第7回まで全ての文献

579 第9回 社会的存在としてのヒト (社会心理学)

580 科目の中での位置付け

581 社会心理学は性格心理学とは異なり、状況が個人に与える影響を扱う。一貫性論争でも多くの社会心理学者
582 が関わっていたし、性格心理学者が性格を測定してそれによって行動予測を行おうとすれば、社会心理学は
583 実験的に状況を操作し、異なる状況が異なる行動を導く過程を研究してきた。しかし、人の行動は性格と状
584 況の関数だとすれば、片方だけを研究して済むものでもない。性格と行動との通状況的一貫性が低いとして
585 も、そこに状況の効果を入れたモデルを作ることによって行動の予測力は向上するだろう。社会心理学にと
586 って重要なのは、個人が状況を作り、また状況が個人に影響するというマイクロ・マクロ・ダイナミックス
587 の過程である。

588 コマ主題細目

- 589 1. 社会心理学とは何か
- 590 2. 人は社会的対象をどう見るか
- 591 3. 社会的現実の構築例
- 592 4. 予言の自己成就と統計的差別: 社会的現実が構築される仕組み

593 細目レベル

- 594 1. 社会心理学では人間行動の記述・説明にあたり状況要因を重視する。「状況」とは、社会であっても文
595 化であっても、単に他者であっても、想像上の他者であってもよい。状況 (マクロ) が個人 (マイクロ)
596 にどう影響するかを主に研究してきたのは心理学的社会心理学である。一方で、マクロな現象がマイク
597 ロレベルの個人によってどう構築されるか、社会がどのように形成されるかという点も重要なポイン
598 トである。こうした研究は社会学的心理学者によって行われてきたが、近年の社会心理学においては重
599 視されているとはいえない現状もある。しかし、個人と社会の相互構成的なあり方を研究するのが社会
600 心理学にとって重要であり、社会現象を創発特性として見る視点を失ってはいけない。
- 601 2. 心理学的社会心理学における一つの大きな業績は社会的認知研究である。認知心理学と同様、人間を一
602 つの情報処理装置とみなし、社会的対象を人がどのように見るかを明らかにしてきた。ここでは古典的
603 な研究として、アッシュによって行われた印象形成実験を紹介した上で、先入観が第一印象を決定する
604 ということを示したケリーの研究、根拠のない偏見が生まれることを示したダーリーとグロスの研究
605 を学ぶ。こうした研究は、なぜそのような視点が人に生まれるのか、という点を問わないという意味で、
606 マイクロ・マクロ・ダイナミックスの視点を欠いてはいるが、社会的問題が個人差に還元できないこと
607 を示しており、重要である。なぜ偏見が生まれ、それが維持されるか、を明らかにするためには、まず
608 そもそもどのような偏見が存在するかを明らかにする必要がある。
- 609 3. マイクロ・マクロ・ダイナミックスの考え方が発揮される社会的現実の構築例について学ぶ。ここでは
610 トイレットペーパーの買い溜めについてフェスティンガーの研究を見ながら学ぶ。また、それに関連す
611 る現象として取り付け騒ぎが起こるプロセスを、一種の社会的現実である集合的な期待の側面から検
612 討する。社会的現実には偏見のようにネガティブなものもあるが、銀行や貨幣に対する信頼など、現代

613 的な社会生活を維持する上で必要不可欠のものもあることを学ぶ。「他の人も銀行はつぶれないと思っ
614 ている」という期待が成立しなければ、銀行という仕組みは成り立たないのである。

615 4. 予言の自己成就と統計的差別という、社会的現実を構築する 2 つの仕組みについて学ぶ。差別や偏見
616 には根拠がある、という言葉説に対して、社会心理学がこれまで明らかにしてきたのは、確かにそうした
617 根拠は存在するが、その根拠が社会的に構築され、また人々のある種合理的な行動によって強化・維持
618 される仕組みである。こうした仕組みは銀行や貨幣制度を維持する上ではポジティブに機能するが、差
619 別や偏見といった社会的に望ましくない現象も引き起こす。人間は社会的に望ましい社会を構築する
620 ようにはできておらず、こうした問題を解決するためにはマクロレベルの政治的な対策が必要である
621 ことを論じる。

622 キーワード

623 マイクロ・マクロ・ダイナミクス、社会的認知、社会的現実、予言の自己実現、統計的差別

624 復習・予習課題

625 ● 予習: 今回のコマシラバスと教材のプリントをあらかじめ読んでおく。性格心理学の一貫性論争につい
626 て復習しておく。個人差を重視する性格心理学と状況による影響力を明らかにしてきた社会心理学と
627 いう 2 つの領域はどのように融合できるか、考えてみる。質問があればメモをしておき、リアクション
628 ペーパーで質問すること。

629 ● 復習: 社会心理学において重要なマイクロ・マクロ・ダイナミクスについて重要な用語を確認してお
630 く。世の中で起きている様々な現象をマイクロ・マクロの見方で説明してみる。特に、それが社会的に
631 望ましい現象を支えているケースと、そうではなく、社会的に是正が必要となるような状況を生み出し
632 ているケースを考え、どのような政策が必要になるかを考える。小テストに解答する。小テストは何を
633 見ながら解答しても構わないが、開始後制限時間が設定されており、全て調べながらやると時間が足り
634 なくなるので、しっかり勉強してから挑むこと。また、制限期間ぎりぎりではじめると終了まで間に合わ
635 ないかもしれないので、余裕をもって行うこと。

636 教材・教具 (番号は細目レベルに対応)

- 637 1. 山岸俊男 (1990). 社会的ジレンマのしくみ: 「自分一人ぐらいの心理」の招くもの サイエンス (p. 6, 7)
- 638 2. 齊藤勇 (編) (1988). 対人社会心理学重要研究集 5: 対人知覚と社会的認知の心理 誠信書房 (p. 2 から
639 の第 1 章を参照。教材では原典を引用しているが、その原典が日本語で読める)
- 640 3. 中西大輔 (2014). 社会心理学者は「創発」をどう考えるか ネットワークが創発する知能研究会 2014
641 (JWEIN2014) 講演資料 (<https://www.slideshare.net/dnakanisi/jwein2014>) (スライド 1-20 枚目)
- 642 4. 山岸俊男 (1992). マイクロ・マクロ社会心理学の一つの方向 実験社会心理学研究, 32(2), 106-114.
643 <https://doi.org/10.2130/jjesp.32.106> (p. 110)

644 第10回 ヒトの個体発生 (発達心理学)

645 科目の中での位置付け

646 発達心理学は人が生まれてから死ぬまでの個体発生の過程を明らかにする試みである。一方、この後に学ぶ
647 進化心理学では、ヒトという種を生物の進化という系統発生の観点から位置づけようとする試みだと言える。
648 発達心理学は主に乳幼児から児童期を対象とした研究が多いが、もちろん対象とする範囲はそれだけではない。
649 人が死ぬまでの過程も「発達」の枠組みからとらえるものであり、発達には社会的な望ましさや成長と
650 という意味は含まれていない (進化が退化を含むのと同様)。ここでは発達という個体発生の仕組みを進化、知
651 覚・思考の発達 (ピアジェを中心に)、言語の発達 (チョムスキー、ピンカーを中心に)、社会性の発達 (愛着
652 理論と心の理論を中心に) という観点から学ぶ。

653 コマ主題細目

- 654 1. 系統発生から個体発生の心理学へ
- 655 2. 知覚と認知の発達
- 656 3. 言語の発達
- 657 4. 社会性の発達

658 細目レベル

- 659 1. 発達心理学は個体発生という観点から人間を見る。個体発生は系統発生を繰り返す、というヘッケルの
660 反復説は間違いだとしても、系統発生は動物がいかなる個体発生をするかにももちろん影響する。例えば
661 ポルトマンはヒトとその他の動物との比較から生理的早産という点に着目したし、トリヴァースは親
662 による投資理論によって進化的な観点から子育てについて検討する枠組みを提供した。子育てに関し
663 て言えば、ポルトマンがいうようにたいへん未熟な状態で生まれて来るヒトの子育てにはアロマザリ
664 ング (共同養育) が必要になってくるという点はヒトの発達を考える上で重要なポイントである。この
665 ように進化と発達は深い関係にあり、それらを統合的に学ぶ必要がある。
- 666 2. 子どもが外界の情報をどのように取り込み、またそれを元にどのような情報処理を発達させていくか
667 をここでは学ぶ。視覚的断崖を使ったギブソンとウォークの実験や、複雑な絵、特に人の顔に似た模様
668 を好む乳児の視覚的特徴を捉えたファンツの実験など、古典的な研究を中心に学ぶ。思考の発達に関し
669 ては、ピアジェの発達理論を学ぶ。ピアジェの理論は、段階論の限界や子どもの能力を実際よりは過小
670 評価しているという意味ですでに現代の発達心理学では古くなっており、更新が必要である。しかし、
671 そのことを考慮しても、ピアジェははじめて体系的に思考の発達を研究した学者であり、また、その研
672 究手法についても、動画が撮れない時代において極めて綿密な観察を行っている点は重要である。
- 673 3. 人であれば文化にかかわらず言語を持っている。言語が生後の経験だけで身につくと考える者はもう
674 ほとんど存在しない。人間であればかならず持っている基本的な言語能力が存在することと主張した
675 のはチョムスキーだが、それをさらにすすめて進化の過程で身につけた言語本能が人には存在すると
676 主張したのはピンカーである。ピンカーはピジンとクレオールが存在、子どもの言語習得の特徴などから、
677 人には生得的な言語本能があることを説得的に示している。つまり、子どもは親や周囲の大人から

678 言語を社会的に学習するというよりは、生得的に持っている文法能力に従って「自分で」言語を習得し
679 ているようである。ここでは、子どもの言語運用上の間違いから、彼らが一定の文法的ルールに従って
680 言語を処理していることを示した研究などを紹介する。

681 4. 社会性の発達を新生児模倣、愛着、心の理論の3つの観点から学ぶ。古典的な新生児模倣の研究は、新
682 生児であっても社会的な刺激に対して反応することを示したが、これが本当に模倣かということには
683 議論がある。社会性の発達という観点からは、重要な他者との愛着関係の形成が重要である。この分野
684 に関しては、ボウルビィやエインズワースの研究を紹介する。エインズワースはストレンジシチュエー
685 ション法を開発したことで、幼児の愛着を分類することを可能にした。また、他者にも自分と同じよう
686 な心があるということを理解できる心の理論を持つことは円滑な社会生活を営む上で重要である。誤
687 った信念を調べることができるサリー・アン課題について学ぶ。

688 キーワード

689 生理的早産、親による投資、ピアジェの発達段階、言語習得、心の理論

690 予習・復習課題

691 ● 予習: 今回のコマシラバスと教材のプリントをあらかじめ読んでおく。自分の幼少期のことを思い出して、
692 自分の考え方や能力がどのように発達してきたのか振り返ってみる。質問があればメモをしてお
693 き、リアクションペーパーで質問すること。

694 ● 復習: 教材プリントを読み返す。小テストに解答する。小テストは何を見ながら解答しても構わないが、
695 開始後制限時間が設定されており、全て調べながらやると時間が足りなくなるので、しっかり勉強して
696 から挑むこと。また、制限期間ぎりぎりで始めると終了まで間に合わないかもしれないので、余裕をも
697 って行うこと。

698 教材・教具 (番号は細目レベルに対応)

699 Portmann, A. (1951). *Biologische Fragmente zu einer: Lehre vom Menschen*. Verlag Benno Schwabe & CO. (ポルトマ
700 ン, A. 高木正孝 (訳) (1961). 人間はどこまで動物か: 新しい人間像のために 岩波新書) (p. 28, 39, 40, 61)

701 Klahr, D. (2012). Revisiting Piaget: A perspective from studies of children's problem-solving abilities. In A. M. Slater & P.
702 C. Quinn (Eds.) *Developmental psychology: Revisiting the classic studies*. (p. 56–70) Sage Publications. (スレーター,
703 A.M.・クイン, P.C. 加藤弘通・川田学・伊藤崇 (監訳) (2017). 発達心理学再入門: ブレークスルーを生ん
704 だ14の研究 新曜社) (p. 26, 69–71)

705 Pinker, S. (1994). *The language instinct: How the mind creates language*. William Morrow. (ピンカー, S. 棕田直子
706 (訳) (1995). 言語を生み出す本能 上 NHK ブックス) (p. 28, 40, 41, 43, 44, 50–55, 57–59, 83, 85, 86, 92, 93)

707 Bjorklund, D. F. & Pellegrini, A. D. (2002). *The origins of human nature: Evolutionary developmental psychology*.
708 American Psychologist Association Press. <https://doi.org/doi.org/10.1037/10425-000> (ビョークランド, D. F.・ペレ
709 グリーニ, D. F. 無藤隆 (監訳) (2008). 進化発達心理学: ヒトの本性の起源 新曜社) (p. 11, 162, 163, 189, 298,
710 301, 302)

711 第 11 回 ヒトの系統発生 (進化心理学)

712 科目の中での位置付け

713 進化心理学は性格心理学や社会心理学と同じ基礎心理学の一分野だが、「進化についての」心理学ではなく、
714 「進化論を使った心理学」という意味である。したがって、進化心理学を用いて性格や社会を研究すること
715 が想定されている。進化心理学においては、進化論は主に仮説の導出に使われる。進化論から仮説を演繹し、
716 それをそれぞれの領域の研究法に従って検討する。進化心理学ではそういう意味で、心理学全体のメタ理論
717 (理論を構築するための理論) としての役割を担っていると言える。現時点で、心理学の領域全体にわたって
718 強力なメタ理論は進化心理学以外にはないという意味でも進化心理学を学ぶ意義はある。ここでは、なぜ進
719 化心理学が心理学にとって重要なのかを科学としての心理学という観点からとらえたい。進化について
720 特に誤解しそうなポイントを中心に学ぶ。具体的な進化心理学の研究例をとりあげながら、至近要因と究極
721 要因、自然主義的誤謬、トレードオフといった重要な概念を学んでいく。

722 コマ主題細目

- 723 1. 心理学と科学の問題
- 724 2. 進化とは何か
- 725 3. 至近要因と究極要因、自然主義的誤謬
- 726 4. トレードオフ

727 細目レベル

- 728 1. 心理学は自然科学ではないが、科学的な方法を取り入れて研究を行っている。しかし、心理学が科学で
729 あるために単に統計学を使うだけでは十分ではない (心理学の研究結果が追試に失敗するという問題
730 も、統計学のみで間違った意味で頼った心理学の分野としての問題を露呈している)。科学的に根拠の
731 ある仮説の導出が不可欠である。そのために進化心理学は役に立つ。仮説の導出にあたって根拠となる
732 メタ理論を提供するからである。具体的には、ヒト以外の動物とも共通するような単純な説明原理に基
733 づく説明を提供すること、リバースエンジニアリングの考え方から予測を立てることができることの2
734 つの利点がある。まずこれらの2点について整理し、進化論に基づく考え方を心理学に導入すること
735 の重要性について学ぶ。
- 736 2. 進化論的な考え方を心理学に導入する場合にいくつか気をつけなければならないことがある。進化心
737 理学は進化の基本的な考え方の分からない人々によってたびたび藁人形論法の犠牲者となってきた。
738 進化はその「分かりやすさ」のため、これまで幾度となく誤解されてきた。そのため、まず進化の定義
739 や、適応を成立させる自然淘汰についてしっかりと理解する必要がある。進化論に対する誤解について
740 もあらかじめ叩いておく必要があるだろう。例えば進化と進歩を混同したり、自然淘汰に目的があると
741 思い込んだりしてしまうという点は案外誤解されやすい点なのでここで改めて学ぶ。また、安易にグル
742 ープや社会、種をその単位としてしまう群淘汰説は案外はまりやすい点なので、気をつけたい。
- 743 3. 実際に進化論から仮説を演繹し、心理学の方法を用いた研究をするとはどういうことなのか、ここでは
744 進化心理学においてもっとも成功した領域とも言える性淘汰理論に基づくバスの研究を紹介する。性

745 淘汰は自然淘汰を補完する理論であり、進化心理学は「セクシー心理学」と揶揄されるくらい、この領
746 域の研究が伝統的に盛んであった。それはこの領域が最も仮説が立てやすかったということもあるの
747 だろう。バスの研究を理解するためにはまずは性淘汰理論を知らなければいけない。性淘汰理論につい
748 て簡単に学んだあと、バスの有名な研究成果をまとめる。そのうえで、進化心理学研究で誤解されやす
749 いポイントである至近要因と究極要因、自然主義的誤謬について確認しておく。

750 4. 進化心理学の利点としては、科学的根拠に基づいた仮説構築の力を心理学に与えるというところが大き
751 きい。もう一つの利点はトレードオフの考え方をごく自然に導入できるという点である。例えば共感性
752 は望ましいもので、攻撃性は望ましくないものだと思ってしまうのは、心理学で扱う概念が日常語でも
753 同様に使われている以上、ある程度仕方のないことである。しかし、共感性は必ずしも向社会的行動に
754 結びつくとは限らない。相手がどうすれば最も嫌がってくれるか、ということを知るにもやはり共感能
755 力が必要であり、いじめの原因と考えられなくもない。日常用語の価値観から自由になるという意味
756 で、あらゆる行動や心理には適応を助ける側面と損なう側面の両方があることを理解したい。

757 キーワード

758 リバース・エンジニアリング、適応課題、自然淘汰と性淘汰、至近要因と究極要因、トレードオフ

759 予習・復習課題

760 ● 予習: 今回のコマシラバスをあらかじめ読んでおく。特に、進化的な考え方を導入する際に注意をしな
761 ければならないのはどのようなポイントか、誤解しやすいところなどを注意しながら読む。質問があれ
762 ばメモをしておき、リアクションペーパーで質問すること。

763 ● 復習: 進化心理学は一つの考え方であり、あらゆる心理学に適用可能であることを踏まえた上で、これ
764 ままでに具体的にどのような研究に進化心理学が導入されてきたのかを教材を読んで再確認する。小テ
765 ストに解答する。小テストは何を見ながら解答しても構わないが、開始後制限時間が設定されており、
766 全て調べながらやると時間が足りなくなるので、しっかり勉強してから挑むこと。また、制限期間ぎり
767 ぎりで始めると終了まで間に合わないかもしれないので、余裕をもって行うこと。

768 教材・教具 (番号は細目レベルに対応)

- 769 1. 長谷川寿一・長谷川真理子 (2000). 進化と人間行動 東京大学出版会 (p. 3, 16, 22, 23, 27, 29, 36-43, 55, 56)
- 770 2. Darwin, C. R. (1859). *On the origin of species by means of natural selection, or the preservation of favoured races in*
771 *the struggle for life*. John Murray. (ダーウィン, C. R. 渡辺政隆 (訳) (2009). 種の起源 (上) 光文社古典新訳
772 文庫) (p. 223-224)、Dawkins, R. (2006). *The selfish gene*. (30th anniversary edition) Oxford University Press. (ド
773 ーキンス, R. 日高敏隆・岸由二・羽田節子・垂水雄二 (訳) (2006). 利己的な遺伝子〈増補新装版〉 紀伊
774 国屋書店) (p. 12, 396-397)
- 775 3. 長谷川真理子 (2005). クジャクの雄はなぜ美しい (増補改訂版) 紀伊国屋書店 (p. 16, 85)
- 776 4. Buss, D. M. (1994). *The evolution on desire*. Basic Books. (バス, D. M. 狩野秀之 (訳) (2000). 男と女のだまし
777 あい: ヒトの性行動の進化 草思社) (p. 11)

778 第 12 回 心理学の臨床的応用 (臨床心理学)

779 科目の中での位置付け

780 心理学と言えは臨床心理学をイメージする人が多いかもしれない。臨床心理学は心理学の中で応用分野にあ
781 たり、基礎心理学の知見が応用されているが、実際には基礎心理学と根本的に異なる点がある。それは個別
782 化という点である。そういう意味ではすでに学んだ性格心理学も本来個人差の学問なので個別化の心理学と
783 言えなくはないが、多くの場合他の領域と同じように平均的な人間の心理学となっている。ところが臨床心
784 理学は今日の前にいるクライアントの問題を解決するという状況に追い込まれるがゆえに、平均で処理して
785 済ませるわけにもいかない。これが他の主流の心理学領域と大きく異なる点である。臨床心理学においては、
786 まずクライアントを査定し、その上で何らかの心理療法が行われる。この査定と心理療法についてどのよう
787 なものがあるかを紹介する。

788 コマ主題細目

- 789 1. 臨床心理学とは何か?
- 790 2. 臨床心理学の諸活動
- 791 3. 臨床心理学における様々な心理療法
- 792 4. 臨床心理学と関連する資格

793 細目レベル

- 794 1. 臨床心理学の起源は、実験心理学の始祖とされることが多いドイツのヴントの弟子であったウイトマ
795 ーであると言われている。彼は、臨床心理学は哲学的思索でもなく、実験室の結果を直接適用するもの
796 ではないと宣言している。サトウ・渡邊 (2019) によれば、臨床心理学は精神病と不適応児への対応と
797 いう 2 つの起源を持つ。精神病への対応にしる、教育現場を含む不適応児への対応にしる、いずれにも
798 査定が必須となる。心理査定には心理検査 (心理テスト) も含まれるが、それだけではない。これは医
799 師の診断に近いものである。査定の一環である心理検査には性格検査、知能検査、投影法など様々な方
800 法がある。ここではそうした様々な査定について学ぶ。
- 801 2. 臨床心理学は他の心理学の分野と大きく異なる点がある。それは、人の行動についての研究を行い、行
802 動の一般法則を明らかにするだけでなく、実践も行う点である。したがって、平均で人を見るだけで
803 はなく、個別化という点が重要になってくる。しかし、それは科学的な考え方が不要であるということ
804 を意味しているわけではない。科学的根拠に基づきながらも、ひとりひとりを尊重するという態度が求
805 められているのである。つまり、臨床心理学では科学的根拠に基づいた査定や療法と実践とのバランス
806 を取るのが重要になってくる。科学者-実践家モデルと言われる考え方である。その考え方を学んだ
807 上で、臨床心理学の活動領域を DSM-5 に分類に基づき整理する。
- 808 3. 介入するかどうかを査定によってスクリーニングした後に、介入の方法を決める。何らかの見立てを行
809 い、適切な療法を選び、それを実行する能力が臨床家には求められるのである。内科医も、手術が必要
810 になれば外科医を紹介するように、場合によっては精神科を勧めたり、別のクリニックを紹介したりす
811 る、とか、ベテランの指導を仰ぎながら、慣れない療法で対応することなどもあるだろう。ここでは、

812 臨床心理学で用いられる様々な療法が成立した歴史的経緯やその療法の特徴を知り、臨床心理学にお
813 いて用いられる手法の全体像を学ぶ。

814 4. 臨床心理士資格は1988年に成立したが、臨床心理士は日本臨床心理士資格認定協会が認定する資格で
815 あり、国家資格ではなかった。悲願であった国家資格の公認心理師法案がついに2017年に施行された。
816 これら2つの資格の違いや、その他、学会等が関わっているいくつかの資格について学ぶ。公認心理師
817 においては研究能力が必要とされないことや、場合によっては大学院を修了する必要がないことから、
818 専門性が十分に保証されないのではないかという議論がある。しかし、臨床心理士においても専門職大
819 学院の場合には修士論文の執筆が課されないし、大学院を修了しないルートが公認心理師にはあると
820 言ってもそのルートを辿る者がどの程度存在するかということも同時に考慮する必要がある。

821 キーワード

822 公認心理師、臨床心理士、DSM、心理検査(査定)、心理療法

823 復習・予習課題

- 824 ● 予習: 今回のコマシラバスと教材のプリントをあらかじめ読んでおく。臨床心理士と公認心理師につい
825 て Web 検索で調べておくこと。また、それらの資格を持つ人がどこで働いているかを調べておく。質
826 問があればメモをしておき、リアクションペーパーで質問すること。
- 827 ● 復習: 臨床心理学ではどのような査定方法があるのか、また、それらの査定方法はどのように整理され
828 るのか、特に構造化の程度に応じて理解できるようにしておく。小テストに解答する。小テストは何を
829 見ながら解答しても構わないが、開始後制限時間が設定されており、全て調べながらやると時間が足り
830 なくなるので、しっかり勉強してから挑むこと。また、制限期間ぎりぎりではじめると終了まで間に合わ
831 ないかもしれないので、余裕をもって行うこと。

832 教材・教具 (番号は細目レベルに対応)

- 833 1. 丹野義彦 (2001). 実証にもとづく臨床心理学に向けて 教育心理学年報, 40, 157-168. (p. 164)
- 834 2. 丹野義彦 (2015). 臨床心理学とは何か 丹野義彦・石垣琢磨・毛利伊吹・佐々木淳・杉山明子 (著) 臨床
835 心理学 有斐閣 (p. 5, 16)
- 836 3. Freud, S. (1917). Vorlesungen zur Einführung in die Psychoanalyse. H. Heller. (フロイト, S. 懸田克躬 (訳) (1973).
837 精神分析学入門 中公文庫) (p. 399, 400)
- 838 4. 日本臨床心理士資格認定協会 <http://fjcbcp.or.jp/rinshou/about-2/>、公認心理師法 第二条
839 http://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_housei.nsf/html/housei/18920150916068.htm

840 第13回 心理学はいかに研究するのか (心理学研究法)

841 科目の中での位置づけ

842 研究法は心理学の最も重要な单元である。これはあらゆる領域に関係するし、心理学にとって最も重要な
843 は「何に関する研究をするか」ではなく、「どのように研究をするか」という点であり、実験や調査といっ
844 た心理学の標準的な研究法を採用していること自体が、多くの心理学者にとって自らのアイデンティティと
845 もなっている。研究の関心は研究者によっていろいろあるが、その研究手法さえ共通していれば、議論がで
846 きる。研究方法が共通しており、議論ができるというのはたいへん重要なことであって、それによって研究
847 者コミュニティが成立し、論文の審査が違いにできる。互いに論文審査を行えるということは、切磋琢磨し
848 て学問の質を高めていけるということも意味する。

849 コマ主題細目

- 850 1. 研究法の存在意義と心的概念の測定
- 851 2. 実験法
- 852 3. 質問紙調査法、面接法、観察法
- 853 4. データ分析

854 細目レベル

- 855 1. 研究法の存在意義は、他の研究者から自分の研究成果を評価できる、あるいは逆に自分が他の研究者の
856 研究成果を評価できることである。評価の軸が同じであることによって、論文の査読制度 (ピア・レビ
857 ュー) が成立する。みんなが決められた方法で研究をすることによって、他の研究者の研究内容を即座
858 に理解することができるし、また、それを追試して研究結果が正しいかどうかを確認することができ
859 る。これはポパーの言う反証可能性を高める制度的工夫でもある。心理学では心的概念を測定する必要
860 がある。そういった概念を数量的に測定する方法が心理学では重要になる。心理学の研究対象は測定可
861 能な行動 (behaviour) である。この行動は測定されてはじめて行動として扱えるという特徴がある。
- 862 2. 実験法は最も主要の方法である。実験法は「実験室で行われるから」実験法というのではなく、街中で
863 行われるフィールド実験やたまたま発生した実験的事態を分析する自然実験のようなものもある。い
864 ずれの実験も、重要なのは、独立変数を操作して、従属変数にどのような変化が得られたかを見るとい
865 う点である。実験には、無作為割当、剰余変数の統制、実験計画、妥当性といった要素を理解する必要
866 がある。また、要求統制や実験者効果といった実験を行う上で注意しなければならない要素がある。実
867 験には実験室実験だけではなく、フィールド実験や自然実験、準実験などという亜種も存在する。それ
868 らの実験法の特徴について学ぶ。
- 869 3. 実験法に次いでよく使われるのが質問紙調査法である。質問紙調査では、実験法とは異なり相関関係は
870 分かるものの、因果関係は分からない。質問紙調査はオンライン化されたシステムもある。質問紙調査
871 では、心理尺度が使われる。心理尺度にはある文を読ませて、それに自分がどのくらい当てはまるかと
872 か、どのくらい賛成かを何段階かで回答させるリッカート法や、両端に対応する形容詞を置いて自分が
873 当てはまると思う数字に丸をつけさせる SD 法、「はい」と「いいえ」で答える諸否法などがある。質

874 問紙調査で注意しなければならないのは調査対象者の負担、回答の歪み、Satisfice 傾向などである。面
875 接法と観察法については主流の研究法ではないため、ここでは種類だけ学ぶ。
876 4. 実験にしる、調査にしる、行動を数値にする (可視化する) ために行われる。心理学の研究では多くの
877 場合、数値を扱う。心理学において扱う数値データには名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度など
878 がある。リッカート尺度や SD 法で測定される値は間隔尺度であるという前提が一応あるが、それにつ
879 いては議論もある。データを分析する際にまず確認しなければならないのは記述統計である。ロー・デ
880 ータを処理し、度数分布やヒストグラムで全体的なデータのばらつきを確認する。データ分析では推測
881 統計を用いる。通常心理学ではサンプリングしたデータを用いるため、そこで得られた結果が本当に母
882 集団の性質を反映しているかどうかを検討する必要がある。その方法が推測統計である。

883 キーワード

884 査読、実験法、調査法、因果関係、記述統計と推測統計

885 予習・復習課題

- 886 ● 予習: 今回のコマシラバスと教材のプリントをあらかじめ読んでおく。ここまで学んできた心理学の実
887 験や調査がどのように行われていたかを振り返っておく。質問があればメモをしておき、リアクション
888 ペーパーで質問すること。
- 889 ● 復習: 授業の教材プリントを読み直す。心理学の研究法を使って自分の関心のある研究テーマについて
890 簡単な研究案を考えてみる。小テストに解答する。小テストは何を見ながら解答しても構わないが、開
891 始後制限時間が設定されており、全て調べながらやると時間が足りなくなるので、しっかり勉強してか
892 ら挑むこと。また、制限期間ぎりぎりで始めると終了まで間に合わないかもしれないので、余裕をもっ
893 て行うこと。

894 教材・教具 (番号は細目レベルに対応)

- 895 1. 渡邊芳之 (2007). 心理学と方法 渡邊芳之 (編). 心理学方法論 (朝倉心理学講座 1) (pp. 1-29) 朝倉書店
896 (p. 5)、加藤司 (2008). [改訂版] 心理学の研究法: 実験法・測定法・統計法 北樹出版 (p. 17, 39, 47, 90)
- 897 2. Searle, A. (1999). *Introducing Research and Data in Psychology*. Routledge (サール, A. 宮本聡介・渡邊真由美
898 (訳) (2005). 心理学研究法入門 新曜社) (p. 23)
- 899 3. 三浦麻子・小林哲郎 (2015). オンライン調査モニタの Satisfice に関する実験的研究 社会心理学研究,
900 31(1), 1-12. https://doi.org/10.14966/jssp.31.1_1 (p. 1)
- 901 4. 尾見康博・川野健治 (1994). 心理学における統計手法再考: 数字に対する“期待”と“不安” 性格心理学研
902 究, 2(1), 56-67. https://doi.org/10.2132/jjpspp.2.1_56 (p. 58)

903 第 14 回 心理学研究において注意すべき点 (心理学と研究倫理)

904 科目の中での位置づけ

905 心理学は人間やそれ以外の動物を研究対象としていることから、研究倫理は大きな問題になる。アルバート
906 坊やの実験、ミルグラムの服従実験、ジンバルド一の模擬監獄実験など、過去研究対象者に対して倫理的な
907 問題となりかねない実験が行われてきた。このような倫理上の問題は、ワトソン以降の、研究者と研究対象
908 となる「被験者」が別の存在となった時から必然的に起こるものであった。こうした倫理は研究対象者に対
909 する倫理だが、研究者は研究者コミュニティ（「アカデミア」と言いたがる人もいるが、マカデミアナツツ
910 のようで好きになれない。マカデミアナツツはうまいが）やより広範な社会への説明責任もある。最近の心
911 理学の再現性問題はこうした倫理についてより積極的な対応が必要であることを示している。

912 コマ主題細目

- 913 1. なぜ研究倫理を考えるのか
- 914 2. 論文審査と倫理
- 915 3. 研究対象に関する倫理
- 916 4. 学会や社会に対する倫理

917 細目レベル

- 918 1. 心理学において研究倫理を考えなければならないのは、研究対象となる人や動物があるからである。最
919 近は論文投稿時にも研究者の所属機関の研究倫理審査委員会で承認を受けることが条件になっている。
920 こうした倫理審査は北米、ヨーロッパで先行しており、日本は遅れがちであった。研究上の効率の方が
921 優先されてきたのである。通常、研究倫理に関しては研究機関で一定のルールを定めており、また学会
922 にもそうした基準が存在する。こうしたルールは、研究者としての誠実な行動をとること、研究協力者
923 の人権を尊重すること、ねつ造、改ざん、盗用をしないことなどごく当然のことが書かれてある一方、
924 研究成果の市民への還元なども含まれることが多い。
- 925 2. 倫理に反するような行動をとる研究者は少数だが、歴史上そうした例は絶えた試しがない。実際著者も
926 不正によって書かれたと思われる論文を審査したことがある。このように論文審査は研究倫理を担保
927 する機能を部分的に果たすが、研究者コミュニティは基本的に性善説に立っていることを確認してお
928 く必要がある。ボランティアによるピア・レビューであり、性悪説にたった審査はコストの問題から事
929 実上不可能だからである。つまり、査読は論文の質を保つ機能を持つが、悪意のある著者の意図を見抜
930 けるようには設計されていないし、やろうとしてもそれは簡単なことではない。実際、世界の一流誌の
931 厳しい審査でも不正を見抜けるわけではないという事例が大量にある。
- 932 3. 実験や調査など、研究対象者が存在する場合の倫理を考える。通常、実験や調査を行う場合には、実験
933 参加者や調査対象者に研究についてしっかり説明をした上で参加の同意を得る必要がある。同意書で
934 は、個人を特定できる情報の取り扱いや、データ削除の可否、実験参加に伴うリスクとメリットが説明
935 される。また、不快を感じた場合には実験や調査への協力を途中で取りやめることができる旨も説明さ
936 れる。社会心理学の研究では実験手続き上、参加者を騙すことがある。こうした手続きを欺瞞手続き

937 (デセプション) というが、そうした手続きをとった場合には実験後に丁寧な説明 (デブリーフィング)
938 を行った上で、再度データ利用の合意を得ることが望ましい。

939 4. 心理学では再現性問題が近年注目されている。2015 年の「心理学の研究を大規模に追試したところ 39%
940 しか成功しなかった (残り 6 割は追試に失敗した)」という報告は学界に衝撃をもたらした。こうした
941 問題が起こるのは QRPs という問題のある研究実践のためであると考えられている。p 値ハッキング
942 (統計上の「テクニック」によって本来統計的に有意でないものを有意にしまうような手続き)、
943 HARKing (結果が出てから仮説を考える)、出版バイアス (有意な結果しか論文にならない) などの研究
944 者側の不適切な行為なシステム上の問題がこうした低い再現性につながっていると考えられている。

945 キーワード

946 倫理審査委員会 (IRB)、性善説に立った審査、インフォームド・コンセント、デセプションとデブリーフィ
947 ング、再現可能性問題

948 予習・復習課題

949 ● 予習: 今回のコマシラバスと教材のプリントをあらかじめ読んでおく。自分が実験を行う場合に注意を
950 しなければならないことはどんなことか考えておく。質問があればメモをしておき、リアクションペイ
951 パーで質問すること。

952 ● 復習: 授業の教材プリントを読み直す。ちとせブレスのサイトにある「心理学研究は信頼できるか?—再
953 現可能性をめぐって」(<http://chitosepress.com/2015/10/26/125/>) を読む。小テストに解答する。小テストは
954 何を見ながら解答しても構わないが、開始後制限時間が設定されており、全て調べながらやると時間が
955 足りなくなるので、しっかり勉強してから挑むこと。また、制限期間ぎりぎりではじめると終了まで間に
956 合わないかもしれないので、余裕をもって行うこと。

957 教材・教具 (番号は細目レベルに対応)

- 958 1. 日本心理学会 (2012). 倫理綱領 Retrieved from <https://psych.or.jp/about/#rinri> (2020 年 5 月 3 日)
- 959 2. 小谷太郎 (2015). 科学者はなぜウソをつくのかわ dZERO、河野太郎 (2016). まだまだ研究者の皆様へ
960 Retrieved from <https://www.taro.org/2016/12/まだまだ研究者の皆様へ.php> (2020 年 5 月 3 日)
- 961 3. 日本心理学会 (2011). 公益社団法人日本心理学会倫理規定 (第 3 版) 日本心理学会 Retrieved from
962 https://psych.or.jp/wp-content/uploads/2017/09/rinri_kitei.pdf (2020 年 5 月 3 日) (p. 7, 8)
- 963 4. 池田功毅・平石界 (2016). 心理学における再現可能性危機: 問題の構造と解決策 心理学評論, 59 (1), 3-
964 14. https://doi.org/10.24602/sjpr.59.1_3 (p. 4)

965 第15回 まとめ

966 科目の中での位置づけ

967 後半部分 (第9回目以降) を中心に、全体を通したまとめを行う。第9回からは社会心理学、発達心理学、
968 進化心理学、臨床心理学と比較的最近発展してきた領域について学んだ。これらの領域は個体内の情報処理
969 ではなく、社会的な存在としての人を前提とした領域である。社会心理学は性格心理学における一貫性論争
970 とつながるし、社会心理学における理論不在の問題は進化心理学において強く批判されてきた。発達心理学
971 では個体差の問題を発達過程の中に位置づけようとする試みと言える。臨床心理学は応用領域といえるが、
972 そこでもやはり重要なのは平均化された人ではなく、個別化された支援であるという点には注意が必要であ
973 る。第13回目、第14回目では心理学における研究方法について学んだ。

974 コマ主題細目

- 975 1. 社会心理学 vs. 進化心理学
- 976 2. 臨床心理学の応用とはどういうことか?
- 977 3. 心理学の研究法はなぜ重要か
- 978 4. 心理学の再現可能性問題

979 細目レベル

- 980 1. 性格心理学に対して一貫性論争でやや優勢であった社会心理学も、進化心理学には押され気味である。
981 むしろ性格心理学と手を組んだ進化心理学が社会心理学のライバルであるとも言える。それは、社会心
982 理学には仮説導出のためのグランドセオリーが存在しないからである。社会心理学に存在する様々な
983 理論は基本的には常識がその出発点となっている。進化心理学は進化生物学を基礎としており、自然科
984 学的な裏付けがある。進化心理学の理論によって社会心理学の知見が補強されることもある。人間行動
985 をなぜある状況が左右するのか、究極要因から答えるのには進化心理学の知見が不可欠である。
- 986 2. 臨床心理学は基礎心理学の知見を「応用」する学問、ということになっているが、果たして本当にその
987 ような構造になっているのだろうか? 例えば社会心理学や発達心理学で得られた知見やデータが臨床
988 心理学に役立つことはあるのだろうか。実際には、「応用領域の臨床心理学」の基礎的データを集める
989 のは「基礎領域の臨床心理学」の研究者なのではないだろうか。心理学は基本的な方法を共通項とする
990 学者が集まって研究が行われているが、分野間の断絶は絶望的なほど深い。基本的に臨床心理学以外の
991 領域では「なぜ」を問うのに対して、臨床心理学では「どのように」が重要な問題となるからかもしれ
992 ない。また、一般的な人の行動を知ろうとすることと、特定の個人の問題を解決することには、もちろ
993 ん関連はあるが、根本的に異なる側面もある。このことについて考えたい。
- 994 3. 心理学の研究法はなぜ重要なのだろうか。例えばこの授業は社会心理学や進化心理学を専門領域とす
995 る担当者によって行われている。授業担当者はこの授業の準備にあたり、専門外としている領域の論文
996 や本を読む必要に迫られた。もちろん、中には読解が非常に難しいものもあったが、最終的には授業を
997 行うのに問題のないレベルまで読み込むことはできたと思われる。それは、心理学であれば、ほぼ同じ
998 ような手法で研究が行われているからである。しかし、心理学史の資料を作成するには哲学の議論を

999 追う必要があり、消化不良の点があった。哲学とは学問体系が全く異なるからである。研究法さえ定め
1000 ておけば、同じ学問を研究している者同士で知識の共有が可能なのである。

1001 4. 心理学において、再現性問題は頭の痛い問題である。この授業でも最後にこの問題を取り上げたが、古
1002 い教科書ではこうした問題を取り上げるものは少なかった。しかし、心理学の研究が再現に失敗すると
1003 いうのはこれまで多くの心理学者に認識されていた。例えば、担当者は指導する学生に心理学の研究論
1004 文の載っている実験や調査を追試させることがあるが、これがほとんど失敗する。しかも、この問題に
1005 関して心理学者の中にも温度差があるという問題もある。実験データが再現することより、おもしろい
1006 ストーリーを作り上げたり、「議論を喚起」したりすることが重要であると主張する研究者は1人や2
1007 人ではないのだ。しかし、心理学が本当に科学であるなら、こうした態度は全く情けないものである。

1008 キーワード

1009 応用・臨床、機能主義、適応・進化、研究法と蝸壺化、再現可能性問題への態度

1010 予習・復習課題

1011 ● 予習: 第9回から第14回までのコマシラバス、教材を全て読んで話を思い出しておく。また、第1回
1012 から第14回まで読んで、分からない点や相互の関連について疑問の点があればメモをしておき、リア
1013 クションペーパーで質問すること。

1014 ● 復習: 臨床心理学とそれ以外の心理学、社会心理学と進化心理学の関係、研究法のメリットとデメリッ
1015 ト、再現可能性問題への態度について考える。特に再現可能性問題については極めて重要なので、Web
1016 検索などによって心理学者によってどのような温度差があるのかを確認しておく。学習心理学に関し
1017 ては「日本行動分析学会実験動画」を観て具体的な実験のイメージを掴んでおくこと。履修判定指標を
1018 再度読んで最終試験に備える。

1019 教材・教具 (番号は細目レベルに対応)

1020 第9回目から第14回目までの全ての文献

履修判定指標

履修指標	履修指標の水準	キーワード	配点	関連回	
1	心理学とは何か	心理学とは何かについて、その成立過程(哲学から心理学へと〈内部〉を忘れる歴史としての心理学史)を踏まえた上で、心理学の基本的な考え方を理解する。初学者が心理学に対してずれた期待をしがちなことについてなぜそういうことが起こるのかを授業内容に沿って考えることができる。心理学には法測定立型の心理学と応用型の心理学があることを理解し、前者では反証可能性を含んだ科学的な考え方、後者では個別化が重要であることを理解していること。	機能主義 行動主義 内部 個別化 反証可能性	10	1 2 8 15
2	学習	学習あるいは学習心理学とは何かを説明でき、生得的行動と習得的行動の違いを理解している。学習心理学成立の契機となったワトソンによる行動主義宣言の内容を読んでその内容を理解し、それ以降の心理学は認知革命後であっても基本的にこの行動主義の考え方を採用していることを確認できる。古典的条件づけと道具的条件づけについて、その内容と実験を説明できる。ソーンダイク、スキナー等の学習心理学において著名な研究者の考え方や研究について理解している。	学習 行動主義 古典的条件づけ 道具的条件づけ 随伴性	10	3
3	知覚	感覚および知覚について基本的な用語を理解している。知覚心理学の成立を支えたのが精神物理学的の進展であることをおさえた上で、精神物理学の用語を覚え、ウェーバーやフェヒナーの研究を説明できる。視覚(形や色の知覚の特徴、特に有名な錯視)と聴覚(音とは何か、何が「聞こえる」のかなど)の仕組みを確認し、われわれが外界の情報をそのまま取り込んでいるのではなく、見たり聞いたりしている世界は心理的な現実なのだということを理解している。	感覚と知覚 モダリティと質 閾と心理物理関数 精神物理学 視覚と聴覚	10	4
4	認知	認知心理学成立の経緯、背景を説明できる。認知心理学の成立は行動主義を乗り越えたと言われるが、実はそうではない(あいかわらず行動主義、機能主義の考え方が心理学の中心である)ということを理解している。前半部分に関しては、エビングハウスをはじめとする記憶の研究について代表的なものを簡単に説明できる。短期記憶や長期記憶といった基本	サイバネティクス モデルとメタファ 推論 ヒューリスティックス バイアス	10	5 6

		的な用語については覚えている。後半では、推論とは何かを理解でき、人の推論の癖について行われた具体的な実験を説明できる。トヴァスキーとカーネマンなどによる一連のヒューリスティックスとバイアスの研究を一通り紹介できる。			
5	行動の個人内要因	性格やパーソナリティに関連する専門用語をおさえた上で、性格やパーソナリティの定義を説明できるようにしておく。性格心理学の学説史について、古代、近代、現代と代表的な研究者の名前と功績が対応づけてその展開を覚える。その歴史の中で類型論と特性論といった代表的な研究方針とそれに関連する研究者名を挙げることができる。性格心理学上の危機と言われている一貫性論争で性格心理学どのように批判されたのかを説明できる。最近の展開として、行動遺伝学と性格心理学の関係を理解している。	性格 パーソナリティ 気質 類型論と特性論 一貫性論争 遺伝と環境	10	7
6	行動の状況要因	社会心理学の特徴を性格心理学における一貫性論争との連続線上で理解している。状況の力をデモンストレートした代表的な古典的研究が何かを知っている。特に、個人が状況をつくり、つくられた状況が個人に影響するという相互影響過程(マイクロ・マクロ・ダイナミックス)を十分理解している。状況が与える影響としては、印象形成や偏見についての研究について説明できる。トイレットペーパーの不足などの社会的な問題がわれわれのどのような認知や行動によって生起するかが簡単に説明できる。	状況の力 創発特性 マイクロ・マクロ・ダイナミックス 対人認知 社会的現実	10	9
7	発達(個体発生)	系統発生と個体発生の違いを理解した上で、個体発生を研究する発達心理学の視点から他の動物と異なるヒトの発達の特徴を説明できる。その上で、系統発生的な視点から発達や子育てについて環境への適応を考慮した説明をすることができる。乳幼児の知覚の特徴について古典的な実験をおさえており、ピアジェの理論を発達段階とともに理解している。ピアジェの理論はもう古い歴史的な価値があることを理解している。社会性の発達と言語習得について基本的な項目を覚えている。	系統発生と個体発生 生理的早産 アロマザリング 親による投資 ピアジェの発達段階 言語習得 心の理論	10	10
8	進化(系統発生)	進化心理学的とは何かを、他の心理学領域との比較から説明できる。特に、仮説導出を科学的に行える点が進化心理学のメリットであることを理解している。その上で、進化心理学の考え方を使得行われた研究をいくつか挙げてそのメリ	仮説導出 モーガンの公準 進化 至近要因と究極要因	10	11

		ットを説明できる。進化心理学的な考え方をするのに必要な進化生物学の考え方を理解している。その観点から、自然淘汰と性淘汰の2つの淘汰について説明できる。	自然淘汰と性淘汰		
9	心理学の実践 (臨床領域)	臨床心理学の起源や歴史上の源流についておさえている。「査定 (アセスメント)」とはどういうことか、答えられる。心理査定について何が重要か、また代表的な心理検査と開発者、簡単な内容が正確に組み合わせられる。応用領域の心理学にとって重要な科学者-実践家モデルを理解し、科学的に心理療法の効果を調べるためにはどのような手続きを行えばよいかを説明できる。様々な心理療法について、その創始者と特徴を覚えている。	臨床心理士と公認心理師 心理査定 科学者-実践家モデル 無作為化比較試験 心理療法	10	12
10	研究法と倫理	心理学研究における測定の意味が分かる。特に心的概念 (構成概念) を測定するにはどのようにしたらよいかを理解している。実験法、調査法、面接法のそれぞれの特徴が確認し、覚えている。特に実験法については実験計画の内容が説明できる。記述統計でデータの特徴を示す方法を、推測統計について、帰無仮説と対立仮説の関係などをそれぞれ説明できる。研究対象に対する倫理と学界や社会に対する倫理について何が必要なのか、QRPs を踏まえて基本的な事項を説明できる。	測定 実験法 独立変数と従属変数 実験計画 QRPs	10	13 14